



令和5年度 可児市立東可児中学校 学校経営全体構想

学校課題

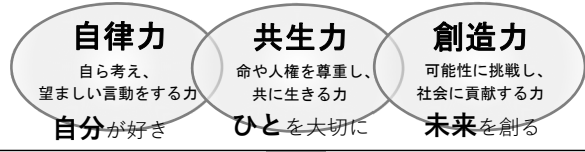
- ◎主体的・対話的に深い学びを実現する態度や能力を一層高めるために、授業改善を重ねていく必要がある。
- ◎生徒一人一人への最適な指導・援助が行えるように、正確な事実認識及びチーム支援を一層充実する必要がある。
- ◎地域等貢献の意識を高めるために、地域行事への参画や地域清掃活動等、地域に働き掛ける生徒会主体の取組を一層工夫展開する必要がある。
- ◎コロナ禍で得られた知見を活かし、学校教育の維持安定を図りつつ、教職員の働き方改革を一層加速させる必要がある。
- ◎教職員一人一人の服務規律遵守及び倫理の保持に向けた意識を一層強化する必要がある。

学校の教育目標

自律 共生 創造



身に付ける3つの力=笑顔の“もと”



経営の方針

- 1 生徒一人一人が自らの学びを実感できる学習指導
- 2 親身になって傾聴し、心を馳せ、自己実現を意図した生徒指導
- 3 豊かな心を育てる教育活動
- 4 学校、家庭、地域社会の連携・協働体制
- 5 教職員が笑顔で元気に業務を推進できる勤務環境
- 6 高い見識と行動力に基づく学校安全・危機管理

* PDCAサイクルを機能させた教育実践

市の方針と重点

【可児市教育大綱】

「子どもの心に寄り添い、個々の力を引き出し、伸ばす義務教育」を推進し、生涯にわたって学び、成長していく人材の育成

- 1 豊かな心の育成
- 2 共に生きるためのルールを守るための意識の高揚
- 3 夢に向かってチャレンジできるたくましい力の育成
- 4 ふるさとを愛し、社会に進んで貢献できる人の育成
- 5 子どもは地域全体で育てる意識の高揚

【可児市教育振興基本計画】

- 1 「生きる力」の基礎の形成
- 2 未来社会を切り拓くための資質・能力の育成
- 3 学びを支援する環境の整備・充実

○学校教育の根底

子ども命を守る

○学校教育の目指す姿

笑顔の学校



具体的実践事項と評価指標

具体的実践事項 <small>学:学習指導部 生:生活安全指導部 特:特別活動指導部 教:教務・管理職</small>	評価指標 (KPI) <small>◎:全国学調 ○:学校評価 □:各種関係調査 *下線部:目標値 (括弧内の数値は現況値 (R4 全国学調))</small>
1 生徒一人一人が自らの学びを実感できる学習指導 <small>学</small> ・目的を明確にした協働的な学びの推進 ・目的を明確にした ICT 教育機器の活用 ・理論と実践の往還を図る研究授業及び日常的な OJT の実施 ・授業評価 (生徒用質問紙) による定点観測	◎「日常の授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」肯定的回答率 <u>90%(82.3%)</u> ◎「日常の授業では、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」肯定的回答率 <u>90%(85.4%)</u> □「授業中に ICT 教育機器を活用して指導できる」肯定的回答率 <u>100%</u>
2 親身になって傾聴し、心を馳せる生徒指導 <small>生(一部特)</small> ・いじめ防止基本方針・東可児中共生宣言等の遵守 * <small>特</small> ・SOS の出し方・気付き方に関する教育・指導の更なる充実 ・方向性を明らかにした迅速・誠実・組織的な対応 (SC との連携) ・WEBQU 等による正確な事実認識	◎「自分にはよいところがある」肯定的回答率 <u>100%(85.4%)</u> ◎「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」肯定的回答率 <u>100%(94.8%)</u> ◎「人が困っているときは進んで動ける」肯定的回答率 <u>100%(96.9%)</u>
3 豊かな心を育てる教育活動 <small>特</small> ・熟議・合意形成・意思決定の過程を経た生徒会・学級活動の推進 ・積み重ねた努力の大きさと値打ちを味わう体験の確保 ・生徒会を起点とした「地域等貢献活動」の工夫展開 ・「ぼく・わたしの笑顔の“もと”」の効果的活用	◎「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」肯定的回答率 <u>100%(89.6%)</u> ◎「人の役に立つ人間になりたい」肯定的回答率 <u>100%(93.7%)</u> ◎「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」肯定的回答率 <u>50%(41.7%)</u>
4 学校、家庭及び地域の連携・協働体制 <small>教</small> ・桜ヶ丘小学校からの系統的な生活・学習の充実 ・学校日より及び HP による具体的かつタイムリーな情報提供 ・「地域とともにある学校」への転換を図るための体制構築 ・学校評価及び学校関係者評価による定点観測	○「学校・家庭・地域が学校の教育目標・方針を理解し、指導にあたっている」肯定的回答率 <u>90.0%(86.4%)</u> ○「情報提供を行っている」肯定的回答率 <u>90.0%(89.1%)</u>
5 笑顔で元気に業務を推進できる勤務環境 <small>教</small> ・勤怠管理の徹底と勤務時間を意識した働き方の加速化 ・年間4ステージによる教育課程の焦点的推進 ・教職員間の対話量の増加 ・ハラスメント調査、ストレスチェックによる定点観測	□時間外在校等時間月 60 時間を超える教職員 <u>0</u> (月 45 時間以内を目指す) □ハラスメント調査実施率 <u>100%</u> とハラスメント件数 <u>0</u> □ストレスチェック実施率 <u>100%</u> と高ストレス者 <u>0</u>
6 高い見識と行動力に基づく学校安全・危機管理 <small>教(一部生)</small> ・自助共助ができる生徒を育てる防災教育の推進 * <small>生</small> ・最悪を想定し、慎重に、素早く、誠意を持って組織的に対応 ・教職員間の日常的な相互チェックの実施 ・不祥事根絶チェックによる定点観測と現職研修の実施	□不祥事根絶チェック実施率 <u>100%</u> と不祥事件数 <u>0</u> □服務規律遵守及び倫理の保持に向けた意識強化を図る現職研修受講率 <u>100%</u>